

## ▶ 地域との関わり

## 社会との連携をどのように進めていますか？

JR東日本グループは、社会の一員として地域・国際社会との交流を進めています。企業市民としての役割を果たすために、駅を中心としたコミュニティづくりをはじめ、福祉、文化、国際協力を通じた社会貢献活動を行っています。

## 地域社会の豊かさをめざして

## 駅型保育園と介護事業

JR東日本グループは、少子高齢社会のニーズに応え、駅に近い利便性と安心・信頼のサービスを提供する「駅型保育」と「介護」の事業展開を、地方自治体などと協力して積極的に進めています。

2005年4月現在、駅型保育園は計16園、介護施設は計3園。埼京線与野本町駅前では、保育施設とデイサービスセンターの併設という新しい試みの複合型福祉施設を開設しました。

埼京線沿線に「点」ではなく「線」として保育園を展開することにより、「子育てしやすい沿線」にすることをめざしています。



「与野本町駅前おひさま保育園」は老人デイサービスセンターを併設

## 駅がもたらす地域活性化

JR東日本は、駅を単なる乗降施設ではなく、情報と文化の発信基地とすることで、地域の活性化に貢献しようと考え、駅舎と公共施設の併設を進めています。2004年度は、東北本線金ヶ崎駅が観光情報ホールや農協施設を併設した合築駅舎として新オープンするなど、3駅が合築駅舎化されました。また、自治体の駅

周辺の整備計画に合わせ、交通渋滞の解消などを目的とした線路と道路の立体交差化なども、協力して進めています。



2005年2月にオープンした金ヶ崎駅新駅舎

## 観光開発

近年、自然景観の保護や、地域住民の社会生活基盤の維持・向上などを視野に入れた、バランスのよい観光開発が求められるようになってきました。JR東日本は、「観光開発は地域おこし」と考え、地元と協力したコンセプトづくりから、首都圏への情報発信に至るまで、地域と密着した観光地づくりを長期的な取り組みとして展開しています。また、地域の方の足であると同時に、観光客の方にも楽しんでいただける「ジョイフルトレイン」を五能線、大湊線などで運行しています。



五能線の美しい景色を楽しめる「リゾートしらかみ」

## 次世代を育むために

## 鉄道少年団の活動支援

鉄道少年団は、青少年の交通道徳の高揚を目的に(財)交通道徳協会が運営し、JR東日本管内では12支部約450人の団員が駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学などを行っています。JR東日本は支社内に事務所を設置し、運転シミュレーターの体験機会を提供するなど、活動支援を継続しています。



お客さまにゴミ袋を手渡し、車内クリーンアップを呼びかけました

## 鉄道施設でイベントを実施

各地の車両製作所や総合車両センターなどでは、より多くの人に鉄道に親んでいただくために、ミニSL体験やスタンプラリーなど、子どもから大人まで楽しめる内容の見学会やフェアを定期的開催。そのうちのひとつである仙台新幹線車両基地まつりでは、約1万5,000人のお客さまが来場されました。



間近で見学できる車両展示や、作業の実演コーナーなどを用意。地域の皆さまにも人気です

## 国際社会への貢献

JR東日本の民営化の経験や技術開発などは、各国の鉄道関係者から高い関心が寄せられています。各国鉄道の発展に貢献するべく、2004年度は723名の海外の鉄道関係者に講義や視察対応などを実施。さらに、国際協力機構等の要請に基づき、発展途上地域へ鉄道専門家を派遣し、現地での指導などの協力を行っています。

また、ドイツ鉄道、イタリア鉄道、フランス国鉄との間で協力協定を締結し、技術開発や経営などに関する情報交換や、長期的な交流を視野に人事交流を行っているほか、中国や韓国などの近隣諸国とも情報交換を通じ交流しています。

### ▶ 国際協力の2004年度実績

派遣	長期(1年以上) 短期(1年未満)	1カ国1名 6カ国24名
受け入れ	国際協力機構 (JICA)研修員	32カ国152名

## 東日本鉄道文化財団を通じた取り組み

### 活動とその目的

JR東日本は1992年に「東日本鉄道文化財団<sup>1</sup>」を設立し、人間性豊かな鉄道文化と交通文化の醸成を目的として活動を展開しています。

### 鉄道博物館の建設・運営

東京・神田にある交通博物館は、鉄道省が1921年に東京駅北側の高架下に

開館した「鉄道博物館」を前身として、1936年に現在の場所に移転されたものです。国内有数の企業博物館として現在も多くの来館がありますが、施設の老朽化が著しく展示スペースも限られるため、「鉄道博物館」として2007年の開館をめざして、さいたま市への移転を進めています。

新たな鉄道博物館は、鉄道システムの変遷をたどる「歴史ゾーン」、鉄道の原理やしぐみを体験的に学ぶ「教育ゾーン」などで構成。国内外の鉄道に関わる遺産・資料の保存や調査研究の推進拠点としての活用もめざしています。



2007年オープン予定の鉄道博物館には、鉄道の仕事を体験できるコーナーも設置

### 鉄道資料保存と国際交流

2001年まで10年間、「鉄道文化と新しい交通社会の探究」を基本テーマとした調査・研究に助成を行い、その助成研究論文をデータベース化し、ホームページで公開しています。また、鉄道関連の書籍やCD-ROMを発行。世界各国の有識者が意見を交換する場として、英文の交通情報評論誌「JRTR<sup>2</sup>」も発行しています。

また、アジア諸国の鉄道の若手幹部職

員を日本へ招き、鉄道経営、鉄道技術などを学ぶ機会を提供する「JR Eastフェローシップ」「JR East国際ショナルコース」「中国鉄道部研修」を実施しています。

### ▶ 研修生の受け入れ実績

年度	JR East フェローシップ	JR East 国際ショナル コース	中国鉄道部 研修
2001	5カ国 10名	★ 5カ国 10名	22名
2002	5カ国 8名	★ 5カ国 10名	21名
2003	5カ国 9名	9カ国 16名	10名
2004	5カ国 10名	10カ国 19名	24名

\*旧「中堅幹部研修」

### 地域文化の振興

1988年開設以来、東京駅ステーションギャラリーでさまざまなジャンルの展覧会を開催しています。

また、地域文化の振興をめざし、東日本各地の貴重な文化遺産や伝統芸能の保存と継承に役立てるよう助成を実施しています。2004年度は14件、5,480万円の助成を行いました。



群馬県高山村の伝統芸能「尻高人形芝居」

<sup>1</sup> 東日本鉄道文化財団：  
URL: <http://www.ejrcc.or.jp/>  
電話：03-5334-0623

<sup>2</sup> 交通情報評論誌「JRTR」：  
Japan Railway & Transport  
Review